

楽しく汗をかいて地域交流

地区体育祭



▲団体競技の花綱引き（中央地区）

地域の交流と健康づくりを図ろうと、10月4日と11日、旭地域の4地区で地区体育祭が開催されました。両日も抜けるような秋晴れのもと、子どもからお年寄りまでたくさんの人が参加して、玉入れや綱引きなど昔ながらの競技や趣向を凝らしたさまざまな競技に、大きな声援と笑い声が響いていました。



▲重さいろいろ米かつぎレース（共和地区）

安全運転を呼び掛け

秋の全国交通安全運動の実施に伴い、市内の交通安全関係団体など150人が、9月19日、旭警察署で出動式を行いました。

出動式では、一日女性警察官となったミスセタの3人が、参加者に向けて宣誓書を読み上げ、交通安全運動への協力を宣言しました。出動式終了後参加者は、市内4か所に分かれ、啓発のため用意された大きなナシをドライバーに手渡ししながら、「安全運転で事故ナシをお願いします」と呼び掛けていました。



▲安全運転を呼びかける一日女性警察官

舞台に昔を懐かしむ

敬老大会

70歳以上のお年寄りを招いて長寿を祝おうと9月21日、東総文化会館、海上公民館、いいおかユートピアセンターの3会場で敬老大会が開催され、合わせて1,600人が参加しました。

会場では、園児の遊戯やお囃子のほか、文化協会による演芸などが披露され、ステージから昔懐かしい曲が流れてくると、歌を口ずさんだり、曲に合わせて手拍子と一緒に踊ったりするお年寄りの姿が見られました。



▲出演者に誘われ一緒に大漁節を踊る参加者

ポイ捨てやめてもっときれいに

秋のゴミゼロ運動



▲集められたごみを分別（十日市場岡区）

市民一人ひとりが、自分たちの地域のごみを拾いきれいな旭にしようと9月27日、秋のゴミゼロ運動が行われました。朝早くから、親子で参加する人や老人クラブ、子ども会など団体で参加する人たちなど、大勢の人が空き缶やビン、ペットボトルなどを拾い集めました。この日集めたごみは、全部で約15トン。道端で家族とごみを拾っていた女性は「昔に比べれば、ごみはずいぶん減ったよ。でも、ポイ捨てがなくならないと」と話していました。

自分で作ったお米の味は？

幽学の里で米作り交流事業「収穫祭」

米作りを通して、都市住民と交流を図る「幽学の里で米作り交流事業」の収穫祭が10月10日、大原幽学遺跡史跡公園で行われました。

この日、参加したのは春から米作りを体験してきた親子など約500人。自分たちの作ったお米を早く食べたいと言っていた子どもたちは、炊き上がったアツアツのご飯を不慣れな手つきでおにぎりにすると、待ちきれないとばかりに口いっぱいにはおぼっていました。



▲もちつき体験。ついたもちはお雑煮に…

元気な笑顔でお出迎え

市内100歳訪問

今年100歳を迎えた皆さんを祝おうと10月6日、市長と海匝健康福祉センター長らが、市内の高齢者11人を訪ねました。100歳を迎えた高齢者へ、国からは内閣総理大臣の祝状と銀杯、市からは長寿祝金と記念品が贈られました。市長が「これからもお元気でいてください」と声を掛けると、高齢者は笑顔で「ありがとうございます」と応え、握手を求める人もいました。



市長に握手を求める100歳の高齢者

スポーツを通じ深まる交流

江戸川区・旭市中学生スポーツ交流・卓球大会

江戸川区と旭市の中学生がスポーツで交流を深めようと、9月19日・20日の二日間、旭市総合体育館で卓球大会が開かれました。4年目を迎える今回は、江戸川区から5校34人、旭市から4校57人の生徒が、団体戦と個人戦に参加。試合が早く終了した生徒は、積極的に練習試合を申し込むなど、館内には、ボールを打ち合う音と掛け声が響いていました。



▲互いの技を競い合う生徒たち

学校と地域が連携して防災訓練

防災モデル事業

地域全体で実践的な防災教育を推進しようと9月29日、飯岡小学校の児童と周辺住民74人が参加して、防災訓練が行われました。当日は、地震が発生し、津波警報が発令されたという想定の下、地震避難訓練と併せて津波避難訓練が行われ、全校児童が校舎3階の教室、周辺住民たちが校舎の屋上に避難しました。訓練の後、体育館では、ボランティア団体による紙芝居、津波から村人を救った物語「稲むらの火」や、日本赤十字社の講師による、奥尻津波被害についての講演などがありました。

戦没者をしのび平和を誓う

戦没者追悼式



▲遺族を始め、参列者が一人ずつステージに設けられた祭壇に献花

戦場に散り、戦禍に倒れるなどして亡くなられた人たちの冥福を祈る戦没者追悼式が10月14日、東総文化会館で行われました。市長は式辞で「悲しみの歴史を忘れることなく、貴重な教訓を深くかみしめ、恒久平和のため一層の努力をしなければならない」と述べ、参列した298人は戦没者へ黙とうを捧げ、未来の平和を祈りました。

卓球国内トッププロから直接指導

本物から学ぶ夢体験

児童や生徒が、さまざまな分野のトップアスリートなどと直接交流することで、夢に向かって努力することや、困難に立ち向かう意欲を培うことを目的に9月20日、総合体育館に四元奈生美選手を招き、卓球の話や練習を指導する、ピング・ポングワークショップが開催されました。このワークショップ



▲四元選手(右)から指導を受ける生徒

には、市内の中学校卓球部員、スポーツ交流で旭を訪れていた江戸川区内の中学校卓球部員や一般の希望者など、約200人が参加しました。質疑応答では、中学生から「どうやったら上手になれるですか」との質問に、四元選手は「練習の量や質を上げて、自分のプレイスタイルを明確にすることです」と答えていました。最後に児童や生徒の練習を見て、打ち方などを丁寧に教えていました。



▲地震発生放送の放送を聞いて、急いで防災ずきんをかぶり、机の下へ隠れる児童たち